

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

活動隊員：小原真理子・芹口順子・高田昭彦

2024年1月17日（水）

<1月17日>

3:30 情報交換

体育館トイレに行こうとしたが、立ち上がれずふらふらしている人がいると申し送りあり。観察により体温 37.2 度、SpO₂ 84%

4:00 トイレキッドの補充

5:00 ホットタオルの準備

6:00 体育館ラウンド、1Fラウンド（窓越しに観察）

7:00 点灯、ホットタオルを配布

観察室：体温 36.4 度、血圧 144/88mmHg

2名（コロナ感染症）は平熱となる。

情報交換

8:00 本部会議

- ・ダンボールベッドを導入していく
- ・本日、20日に出発する二次避難の希望をとっていく
- ・引き続き罹災証明書も申請手続きを行っていく
- ・本日午後、千葉県チームは交代する。
- ・物資の申請については、千葉県から浜松市に流れる。
- ・医療・看護については用紙の右上に看護と赤字で記載する。

8:30 診療の準備（保健室1チーム診療）

- ・マイクで診療開始について知らせる
- ・体育館住民の診療受付（氏名・年齢・住所・症状の記載）
- ・廊下での待合は寒いので、体育館内で待機、on call とする
- ・合間にボランティア（被災者であり、消防団）の健康チェック
- ・希望者以外、一般住民 血圧 150 以上、体温 37 度以上は受診を勧める。

以下、住民ボランティア 5 名の方に受診を勧める

血圧 167/115 mmHg 体温 36.2 度 SpO₂ 100%

血圧 191/122 mmHg 体温 35.2 度 SpO₂ 98%

血圧 126/99 mmHg 体温 37.2 度 SpO₂ 97%

血圧 158/91 mmHg 体温 35.9 度 SpO₂ 98%

9:00 本部長より二次避難について昨夜に引き続き住民に説明する。

9:30 自衛隊医療チーム来所

自衛隊 1 チーム：体育館の住民と教室の住民を対象に往診

受診者数：9名（体育館の患者は風邪症状と血圧関連が主である）

教室住民：203 37度台持続、嫁 緑内障の薬を希望

体育館：・1名軟膏を希望

・夜間に状態不良だった1名の方が、どこに行ったか不明だったが、かかりつけ医師に受診していた。検査の結果、コロナ陽性が判明した。

2Fの部屋に妻、娘の3人で同室とした。

10:30 朝食 感染者の部屋の配膳は消防が対応したが、患者に渡すのは看護師

12:00 医療チーム診療終了、退室

診療状況の情報を得る 処方21人（感冒7名、コロナ2名、高血圧6名、処方なし6名）

12:30 交代で朝食をとる

13:00 昨日、ブルーシート貼りを実施した後に、届けるとの連絡があったダンボールベッド51台が届き、避難者の協力を得ながら作成、設置を行った。正しい手順でのベッド作成、配置に時間を要したが、入り口から見て左側の設置ができた。二次避難の動きにより右側は、明日希望者のみとする。

A列とB列のベッド番号の紙を、A列は壁側に、B列はダンボールに貼る。

今後、氏名とベッド番号との一覧表を作成する予定である。



15:00 TV体操と換気、マスクの交換について呼びかける

17:00 食事の配膳、感染部屋・要支援者の確認

18:00 交代で食事

コロナ2名の部屋が乾燥しているため、タオル15枚をぬらし部屋に干す。

18:30 本部合同会議

【本部から報告】

- ・避難住民数 147 名→6 名退所して 141 名に減少した。
新たな入室はなし。車中泊 2 名で合計 143 名
- ・避難所からの退去者リストは 1/11(木)から作っている。
- ・災害時、避難住民が避難所を退去すると行政と縁が切れてしまうことは良くある。
被災者としてのサービスに関する情報も縁が切れてしまう場合があるので、退去者に知らせることが必要である。
- ・退去者名簿を珠洲市役所市民課に提供する方針
- ・二次避難の説明 今のところ 91 名が申請した。
18 日午後、詳細について再度説明の予定
- ・罹災証明の手続き進行中、家屋の 4 方向から写真撮影する

【物資担当者より報告】

- ・ピースウインズジャパンよりダンボールベッド 100 個が納入された。
- ・赤十字安眠セットが納入された。
- ・地元に縁のある、市民キャビネット災害支援部会、NPO 埼玉ネットより民間寄贈物資が納入された。
- ・1/19(金)15 時、2 次避難の詳細について説明を行う予定
2 次避難の実施は 1/20(土)とのこと

【消防から報告】

- ・消防分団は山の水源に、水を汲みに行った。
- ・コロナ感染者が出たため、消防分団としては、体育館内活動は参加しない
- ・片側交互通行の信号が青 4 分、赤 8 分くらいで待ち時間が長すぎる。信号の設置場所を工夫することによって、待ち時間を減らせると考えている。

【看護から報告】

- ・自衛隊 医師による外来診察、感染者の巡回診療を実施
診療は風邪症状がほとんど
- ・精神科医師に 1 名受診 16 日 1 ヶ月効くという筋肉注射実施
薬剤の処方、自衛隊医師がかかりつけの医師と情報共有し、薬が届いた。
本人より分包の希望あり。軟膏の処方を希望。
- ・夜、千葉県チームにベッド NO と氏名の一覧表を作成依頼、住民氏名は本部長が書き留めている。

【千葉県職員から報告】

- ・千葉県職員 4名が交代で着任
- ・衛星電話のスターリンクの都合で、1/19に機材変更したい
(各社の携帯電話が使用可能となったので、スターリンクは撤収しても差し支えないが、今後、調整していく)
- ・国土交通省のエクストレイルの機材交換(機材追加)の話あり。
こちらもすでに通電しているので、必要性は低い。
- ・通電車を土砂崩れ現場の照明に使用できるのではないかという意見が住民からあった。

17日感染対策は昨日16日と同様

課題

避難所における課題として下記をアセスメントした。

- ① 感染予防対策は今後も必要である。
- ② ブルーシートを敷き上履きとしたが、スリッパ履き替え時、転倒予防のための対策として椅子を3脚配置した。
- ③ 高齢者の中で足元が不安定な住人がいるが、家族の介助で歩行している。一人の場合もあり、引き続き見守りが必要である。
- ④ 避難所本部3役との連携・協働により、避難所の課題、個人別の課題に対応する。
 - ・高齢者以外の避難者(主に消防団)がボランティアとして避難所のトイレ掃除・汚物処理と消毒、外のごみ処理、湧き水の運搬、外の道路整備などの負担が大きくなっている。その理由はコロナやインフルエンザに感染しているボランティア、ボランティアの退席、今後二次避難するボランティア等、活動するボランティアの人材が減少しておりどうカバーしていくか、外部のボランティアが入ることが可能となる日はいつか。
 - ・コロナやインフルエンザの感染症患者は二次避難が遅れる可能性がある。その間現避難所で避難生活する必要性があり、その避難生活の支援は誰に委ねられるか。
 - ・避難住民全般に避難生活の疲弊が見られる。
 - ・コロナ、インフルエンザ等の感染症が拡大、災害関連死の出現
 - ・長期間の断水による避難生活が心身への影響
- ⑤ 本部長の説明により、二次避難希望者が増えるか
 - ・二次避難をするか、なかなか決心がつかない
 - ・本避難所はいつまで運営されるのか、水道はまだ復旧していない
 - ・今後の生活再建に対する不安